



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2020年
2月25日
発行

第18回 「環境問題と株式市場」

初めに

1月20日付ウィークリーレポート「2020年のびっくり大予想」では2番目のびっくり予想として「グレタ・トゥーンベリ氏がノーベル平和賞を受賞、環境関連株が買われる」を挙げましたが、実際に環境問題が株式市場に与える影響は拡大しつつあります。今回は環境問題と株式市場の関係について考えてみます。

加速する日本企業の温暖化対策

元々温暖化対策は欧州企業が先行していますが、ESG投資の活発化などを背景に日本企業もペースを上げて取り組んでいます。最近では東京ガスが2030年代にCO2排出量を13年比で約3割削減、50年代には太陽光などの活用により実質ゼロにするとの目標を示しました。実質ゼロまで踏み込むのは、国内のエネルギー大手では初めて(日本経済新聞、2月7日)とのことです。また同じくエネルギー大手の出光興産は国内の石油需要が30年には3割減、40年には半減とのシナリオの下に化石燃料依存からの脱却を目指し、営業利益に占める機能材事業などの比率を引き上げるとのことです。その他日本郵船や商船三井などの海運企業も燃料を石油から天然ガスなどに切り替えることにより、CO2排出量の削減を図っています。

環境規制と株式市場

環境規制は企業にとって負担の増加です。そのため一般論としては株式市場にマイナスとなりますが、一方で技術革新を促し、新しい市場の創出に貢献するというプラス面もあります。「環境関連」の名称は株式市場では定着していますし、筆者が環境関連株の期待を予想しているのも冒頭お話しした通りです。

環境関連株とは

通常環境関連と呼ばれる企業としては、太陽光、風力発電、電気自動車 (EV) などが挙げられます。この中で注目度が最も高いのは電気自動車 (EV) でしょう。

米テスラの株価上昇

足元中国市場の不振から、世界的に自動車会社の業績は低迷していますが、例外がテスラです。電気自動車 (EV) を主力製品とするテスラは、環境規制を追い風に売り上げを伸ばし、まだ赤字ですが株価は上昇しています。日本勢はハイブリッドを主力としていますが、電気自動車 (EV) では出遅れた形となっています。今後、日本の自動車メーカーがどのように巻き返すかについて注目しています。

マクドナルドも環境関連？

環境関連株として自分が注目しているのは、人工肉を取り扱う企業です。牛や豚などのゲップや糞から放出されるメタンガスが地球温暖化の原因になっているという説があります。ということであれば、人工肉を使うことも温暖化対策の一つとすることができるでしょう。

米国のマクドナルドでは人工肉を使用した商品を提供していると聞きますが、もしそうであれば、マクドナルドが環境関連株として評価されることも考えられます。

以上、環境問題と株式市場について述べさせていただきましたが、このテーマについては今後もフォローしていく予定です。

西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES CO., LTD.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等はご遠慮ください。